



海外生活 エッセー

シンガポール事務所

シンガポールの祝日にみる民族の多様性

(一財)自治体国際化協会シンガポール事務所調査役 徳永 達也 (兵庫県派遣)

→ 民族の多様性

シンガポールは、国民の約4分の3は中華系民族ですが、マレー系民族が約13%、インド系民族が約9%を占めており、公用語もマレー語、中国語(北京語)、英語、タミール語が用いられています。

また宗教も、仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンドゥー教など多様で、これらの民族・宗教に関連した祝日があります。

→ どんな祝日が…

2016年のカレンダーを1月から順を追って見てみると、まず1月1日は日本と同じく「ニュー・イヤーズ・デー」で祝日ですが、2月8日・9日の「チャイニーズ・ニュー・イヤー」の方が盛大にお祝いされています。シンガポールでは、爆竹による死亡事故が発生したため、1972年に爆竹が使用禁止になっていますが、その代わりとして1973年から民族衣装・伝統舞踏や山車などのストリートパレード「チンゲイ・パレード」がチャイニーズ・ニュー・イヤーの翌週末に開かれ、新年を祝います。

3月に入ると、今年は25日金曜日がイエス・キリストが十字架にかけられて処刑された日「グッド・フラデー」の祝日になります。

5月は、1日が労働者の日「レイバー・デイ」、21日は、お釈迦様の生まれた日お祝いする「ベサック・デー」になります。この日は、2007年のベサック・デーにあわせて新しくできた寺院「新加坡佛牙寺」などに多くの信者が参拝に訪れます。

6月6日は、イスラム教徒の断食明けの日「ハリ・ラヤ・プアサ」の祝日、シンガポール最大のイスラム教寺院「サルタン・モスク」のあるアラブ・ストリート周辺などが多くの信者で賑わいます。

8月の祝日は後述しますが、9月12日には、もう一つのイスラム教関連の祝日、メッカ巡礼者を祝う「ハリ・ラヤ・ハジ」があります。

そして、10月29日には、ヒンドゥー教徒最大の行事である光の祭典「ディーパバリ」があります。この日にあわせて、1855年に南インドからの移民によって建てられたヒンドゥー教寺院「スリ・スリニバサ・ペルマル寺院」のあるリトル・インディア地区などは、カラフルな電飾で飾り付けられます。

今年最後の祝日は、12月25日の「クリスマス・デー」です。シンガポール随一のショッピングエリア「オーチャード・ロード」をはじめさまざまなところがイルミネーションで飾られ、街は賑わいます。

西暦、イスラム歴、中国歴、ヒンドゥー歴などにより年によって日にちが異なる祝日もありますが、今年年間11日の祝日があります。

→ 国民としての一体感

シンガポールには、前述のようにさまざまな民族・宗教に関連した祝日がありますが、シンガポール国民としての一体感を醸し出す日としてあげられるのが8月9日の独立記念日「ナショナル・デー」です。

マレーシアから分離独立し共和国になって50年を迎えた昨年は、「SG50」のロゴを使って1年を通してさまざまなイベントが行われていましたが、その山場となる「ナショナル・デー」では、過去最大の国軍によるパレードや花火などもあり、国民が一体となってお祝いムードに溢れていました。

さまざまな民族・宗教を尊重しつつ、国民としての一体感を醸成するシンガポールの取り組みが、1年の祝日にもよく表れています。



SG50を祝う花火